

安全運転重点事項 2022年7月

■ 過労運転事故の防止

7月は、気温や湿度が高まり、運転者の疲労が倍加するだけでなく、レジャー運転の車が増えるので、神経を使う機会が増えます。

また、コロナ禍の制限が少なくなり様々な車が運転していますので、高速道路などでは他車とのトラブルに注意する必要があります。



■ 運転者の疲労、うっかりに配慮しよう



暑さへの対応、睡眠不足の解消を

夏場の運転は疲労との戦いです。通常より早めの休憩を行い、疲れる前に休むことを意識してください。また、高温多湿で寝苦しい夜が続くことで運転者が睡眠不足に陥っている恐れがあります。睡りが浅かったり睡眠時間が足りないと、昼間の運転中に注意力・集中力が落ちてきて、確認漏れや見落としなどのうっかりミスが増えます。

毎朝の点呼や朝礼時には、疲れが見えたり睡眠不足気味の運転者がいないか気をつけて観察し、前夜の睡眠が十分にとれているのか確認を行ってください。

夏場は特に業務間のインターバル（休息）を重視しよう

前日に残業をした運転者がいても、その残業時間が3・6協定の範囲内であれば何の問題もないと考えがちです。

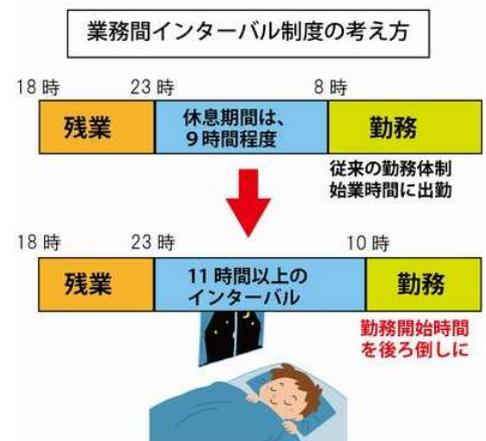
しかし、現実には、前日の残業が翌日の労働に影響を与えることが少なくありません。残業が続くことで疲労が蓄積して、回復できなくなる恐れがあります。

そこで、働き方改革の基本理念の一つとして、「勤務間インターバル」制度の考え方が導入され、企業の努力義務とされています。

前日の勤務終了後、翌日の出社までの間に一定時間以上の休息時間（インターバル）を設けるという制度で、厚生労働省では11時間以上を推奨しています。

暑くなると特に前日の疲労が残りやすいので、業務間の休息期間は最低でも11時間はとっておきたいものです。前日に夜11時ごろまで残業した運転者がいれば、他の者と同じように朝8時に出勤させるのではなく、翌日の始業時間は10時以降に設定しましょう。

長時間の残業をしても、家でゆっくりして疲れをとって出社すれば、翌日の運転に影響を与えることは少なくなります。



■ **セーフティチャレンジ参加** 実施期間：2022年7月1日～12月31日

■ **交通事故防止コンクール参加** 実施期間：2022年7月1日～9月30日

上記運動は7月1日より開始となります。社員・契約社員の方が対象となりますので、安全運転の励行をお願い致します。